

インターバンクの声（2017年7月12日）

3月15日以来、約4ヶ月ぶりの円安水準まで円売り・ドル買いが進んでいた円相場は、ニューヨーク時間に予定されていたブレイナードFRB理事の講演での発言や12、13両日に控えるイエレン議長の議会証言で、もう一段の円安に進むべきかを判断するところに来ていた。

しかし、その判断を下す前に、トランプ米大統領の長男ドナルド・トランプ・ジュニア氏が昨秋の米大統領選前にロシア政府とメールを交換していたとの情報が伝わり、一気に相場が動き出してしまった。

この情報が伝わる前は114円50銭を越える寸前までドルが上昇していたが、直ぐに114円を割り込み、米10年債利回りの低下に株価の急落が加わると113円70銭台まで下落した。

そもそも7月に入ってからドルの対円での上昇を説明するのは難しく、単純に「金融緩和の引締めに向かいつつある欧米の金融政策と日本の金融政策の明確な方向性の違い」による円売りなどの解説は後付に過ぎないと思う。

昨夜のトランプ・ジュニアの情報による下落も調整するきっかけを待っていた市場の動きのようにも感じる。「115円越えは難しい」と言い出す人が増えそうだ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。